

# リテラシーへの眼差し

## ～脱「教えない／わからない」へ～

シンキング・バース  
日本語研究班

### 基本になるのは ことばの読み書き

リテラシー (literacy) ということばに、ボクが初めて接したのは、2000年頃だったと記憶しています。ボクの友人に、テレビが子供たちに与える影響について研究している人がいて、その著作で「メディア・リテラシー(media literacy)」ということばを知りました。初めは、何のことか理解できないことばでした。

リテラシーはその後、インターネット時代を迎えて、より重視されることばになりました。意識して「読み書きそろばん」とすることがありますが、主にメディアに関して、基本的なルールやマナーを身につけること、とボクを含めて、多くの方が理解しています。

#### ●社会性を意識した読み書き

リテラシー (literacy) という英語は、literal の派生語に属しています。literal は、「文字上の／文字どおりの／正確な」と訳されています。反対語に illiterate があり、「読み書きができない／無学な」と訳されます。illiteracy (イリテラシー) は、「文字の読み書きができないこと」です。

リテラシーは、自主的に学ぶことも大切

ですが、教育の一環として取り入れることが、より重要です。ボクの友人の著作では、カナダのメディア・リテラシー教育の例を挙げ、日本でも取り組む必要があると強調していました。

ボクの先輩が働いていた新聞業界では、新聞を教育に活用する NIE (Newspaper in Education) と呼ばれる活動があります。子供たち自身が、新聞づくりを体験することで、事実伝達のルールやマナー、紙面づくりを学んで行く活動です。子供たちの自主性を育てながら、国語を超えた言語の社会性を、学ぶ／教えることが重要なのです。



#### ●虚実の切り分けとリテラシー

リテラシー (literacy) という英語の類語には、literature もあります。「文学」と訳するのが一般的で、主に「小説(novel)」をイメージする傾向が、強くなっています。

「文学」は、言語の基本的なルールやマナーを学び、育てて行く学問と、ボクたちは考えています。「小説」というフィクション、理数系で言う「仮説」を立てるにしても、感情任せのことばには走りません。筋道(論理構築)を考え、妥当性を考えます。

フィクションとノンフィクションの切り分け、仮想と現実の切り分けを、子供たちにことばとして教えるのは、大人が果たす必要がある務めなのです。

**シンキング・バース新書**

ボクとワタシの日本語診断  
リテラシーへの眼差し

2018年9月9日（初版）発行

著者：シンキング・バース  
日本語研究班

発行者：遊佐 芳泰

発行所：**シンキング・バース**

〒021-0821

岩手県一関市三関字神田105番5号

電話／FAX 0191-23-0724

※この論考の著作権は、図表を含めてシンキング・バースに帰属しています。複写、無断転載、無断転用は固くお断りします。